

平成30年度第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成30年7月4日（水）18：30～20：30

場 所：浜益支所庁議室

資 料：会議次第

浜益区地域おこし協力隊面接結果について

資料1

参考資料

- (1) 浜益厚田乗合自動車（浜厚線）の利用状況について
浜益厚田間乗合自動車利用実績実態調査（アンケート調査）
「道の駅あいろーど厚田」で乗り換え可能になりました！！
- (2) 荘内藩ハママシケ陣屋を語る夕べ ほか
- (3) 地域おこし協力隊推進要綱
石狩市地域おこし協力隊設置要綱
- (4) 学習塾（家庭教師）に関するアンケート_小・中学校のお子さんのいる家庭向け（原案）
学習塾（家庭教師）に関するアンケート_今春中学生のお子さんが卒業された家庭向け（原案）
- (5) 新聞記事

＝会議次第＝

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 報告事項
 - 1) 地域おこし協力隊の面接結果等について
4. その他
5. 次回開催日程について
6. 閉 会

出席者：20人（委員10名、職員10名）傍聴人：1名

委 員			職 員	
役 職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会 長	宮田 勉	○	浜) 支所長	松田 裕
副会長	大久保満彦	○	浜) 地域振興課長	笹 富雄
委 員	寺山 広司		浜) 地域振興課観光担当課長	成田 和幸
委 員	門脇 弥		浜) 市民福祉課長(併教) 浜益生涯学習課長	宇野 博徳
委 員	小田 則貞	○	浜) 保健福祉担当課長(兼保) はまます保育園長 兼保) 浜益国保診療所庶務課長	若狭 康晴
委 員	三上 正信		浜) 地域振興課地域振興担当主査兼産業振興担当主査	藤巻 誠一
委 員	辻 カヨ子	○	浜) 地域振興課産業振興担当主査兼地域振興担当主査	柿崎 恵一
委 員	羽立 裕子	○	浜) 地域振興課地域振興担当主任兼産業振興担当主任	須田 恒
委 員	岸本 紀子	○	企) 次長(厚田浜益担当) 扱企画課長	本間 孝之
委 員	中元 義晴	○	環) 広聴・市民生活課長	時崎 宗男
委 員	渡邊真奈美	○		
委 員	大浦 浩	○		
委 員	徳地 克実			
委 員	石川 宗	○		
委 員	瀧 勝明			

1 開 会

【笹課長】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

只今より平成30年度第3回浜益区地域協議会を開催いたします。開会にあたりまして宮田会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

【宮田会長】

お忙しいところ会議に出席いただきまして、ありがとうございます。

道内各地では大雨による災害が発生しておりまして、特に旭川市、留萌市、東川町、そして隣の増毛町あたりでも河川の氾濫により、道路や住宅に被害が出ているようであります。去年の浜益の大雨災害時の恐怖を思い出しながら、被害にあわれた皆様には心からお見舞い申し上げたいと思います。

また、浜益においても、6月中旬からの天候不順が続きまして、農作物の生育の遅れや、海への泥水の流入によるウニ漁をはじめとする、漁業への影響が心配されるところであります。

特にこれからは、サクランボ狩りやウニ井を目当てに、そして7日には浜益ピリカ・ビーチがオープンします。浜益もいよいよ本格的な観光シーズンに入りますが、たくさんのお客様の入込みを期待したいと思います。そのためにも早く天候が安定することを祈るばかりであります。

今日のご案内のとおり、募集しておりました地域おこし協力隊員の面接結果の報告1件であります。そのほか地域振興課観光担当より着地型観光まちづくりの取り組みについて、それから環境市民部広聴・市民生活課からデマンド交通のニーズ調査について、企画経済部企画課より市過疎地域自立促進市町村計画のその後について、そして浜益生涯学習課からは、荘内藩ハママシケ陣屋跡地活用の取り組みについて、それぞれ報告依頼等を予定しております。

貴重な時間でもありますので、前回結論が保留となっておりました地域おこし協力隊の活動範囲についてと、それから子供たちの受験に向けた塾講師等についての課題などについても説明を受け、さらに時間があれば、もうすこし掘り下げた中で議論をしていければと考えております。

アグリテック中田社長、企画経済部本間次長、広聴・市民福祉課時崎課長、本日はよろしく申し上げます。

【笹課長】

ありがとうございました。

それでは、これからの議事進行については、会長に議長をお願いいたします。

3 報告事項

【宮田会長】

はじめに報告事項1) 地域おこし協力隊の面接結果等について、説明をお願いいたします。

【藤巻主査】

地域おこし協力隊の面接結果等について、資料に基づきご説明申し上げます。

資料1 浜益区地域おこし協力隊面接結果について (説 明)

【宮田会長】

只今担当より地域おこし協力隊の面接結果について、説明がありました。委員の皆様方からなにかご質問等ございませんでしょうか。

— 休 憩 —

皆さんから質問ございませんか。なければ以上でよろしいですか。

【委員多数】

はい。

4 そ の 他

【宮田会長】

その他といたしまして、各課から報告依頼事項がありますので、順次お願いしたいと思います。

【成田課長】

浜益支所の観光担当は、去年から観光を切り口としたまちづくりというものに取り組んでおりまして、今年2年目なのですが、今年は総務省の補助事業の地域再生マネージャー事業という名前を使っている事業に取り組んでおります。手始めに今年の5月に浜益観光まちづくり推進協議会というものを立ち上げました。その協議会の中でこれからいろいろと取り組んでいくのですけれども、その取り組みの第1弾として、先日区内皆さんに全戸配布しました、「いまはま」というカラーの両面刷りのもので、これが仕事の最初の第1弾として、この「いまはま」の編集長でございます、渡邊真奈美委員からこの取り組みについて一言説明させていただきます。その後、中田マネージャーのほうから地域再生について、観光まちづくりについて若干の説明をさせていただきます。

【渡邊委員】

私のほうから説明させていただきます。

まず、浜益観光まちづくり推進協議会を設立する前の経緯をお話したいと思いますけれども、昨年12月に地域資源を活用したまちづくり会議ということで、巨樹巨木保全協議会、黄金山岳会、山道の会等々の自然に関わる団体と、私の入っている「わかもん会」なんかが集められまして、会議をしました。その時にアドバイザーとして来て頂いたのが、今日来ていただいている中田さんなんですけれども、そこから農家民泊だとか、体験観光プログラムなんかの話を聞きまして、私もいろいろな観光のセミナーだとか、ワークショップだとかも出てはいたんですけれども、その場で終わるようなものばかりで、なかなか自分には遠い話みたいなものばかりだったのですが、今回、中田さんから聞いたお話は、本当に手が届くような感じですので興味が出たのです。1月に実際に中田さんのいる東川町に視察に行きまして、山の中でイチイの木を見にスノーシュー、かんじきですね、それをはいて歩いていたりだとか、東川の町の中をガイド付きで歩いたりして、立ち寄ったお店で試食させてもらったり、コーヒーを飲ませてもらったりして、こういう楽しみ方もあるんだなというのを見させていただきました。ガイド付きの街中探検みたいな感じで、とっても楽しめたのもありますし、東川って面白いな、また行きたいなと思えたというのが凄くびっくりというか、こういう観光の仕方もあるんだなというのを、本当に勉強になりました。で、浜益もやっぱり黄金山だとか荘内藩陣屋だとか普段はあまり注目されてないのですけれども、地域の人もそんなに大切さをわかっていないというか、本当はもしかしたら観光資源になるんじゃないかというものが、沢山埋もれているんだなというのを感じたので、ぜひこれは、何かしたい、もっと外部にもPRしたいなと思ひまして、本当は、ここに暮らす人口を増やしていきたいというのが一番なんですけれども、いきなりそれは無理だとしても、浜益へ交流する人口を増やしていければ、そこからまた何か新しいことにつながるかなというのがありまして、一旦この会議は昨年度で終わったんですけども、もっとまちづくりをやりたいということで、今年度5月にこのまちづくり推進協議会を立ち上げました。

まずは内部と外部での情報発信をしていこうということで、内部では先程課長より説明があった「いまはま」という情報紙を出す予定です。こちらはまちづくり協議会で取り組んでいることとか、地域の情報を地域の人に知ってもらおう。例えば木村果樹園さんでクッキーを出しているのが知らなくて、よそから聞いてびっくりしたんです。そういうことを地元が知らないというのが凄く残念なので、浜益の情報を浜益の人に伝える、以前青年会で出していた浜益新聞の要素も取り入れながら、協議会でどんなことをしているのか、興味を持ってもらいたいことと、参加もして欲しいことを載せて行きたいと思っています。後は外部への情報発信として、昨年度の会議のときに気になったのが、これだけインターネットが発達しているのに浜益の情報って全然出てこなくてバラバラなんですよね。その部分をちゃんと浜益の旬の情報が分かるもの、あとはそこを見れば浜益の何もかも分かるようなページを作っていきたいなと思っています。そこから体験観光とかにつなげていきたいと思っています。

【成田課長】

引き続きまして、中田浩康さんをご紹介します。中田さんは有限会社アグリテックという会社を、東川町を拠点にして代表取締役として活動を行っております。どのような会社かと言いますと、体験型観光などを企画、事業化してコーディネートするというようなことで、学生さんから外国人観光客まで幅広いお客さんを北海道、東川町に招き入れて交流人口を増やしているという活動でございます。

肩書きとしまして、地域力創造アドバイザーとかがありまして、今回の地域再生マネージャーというのは総務省から認定を受けている肩書きでございます。その地域再生マネージャーの中田さんを我々浜益が今年招聘させてもらって、いろいろとその事業、取り組みにいま勉強させてもらっているところでございます。そういった取り組み内容につきまして、中田マネージャーの方から若干時間をいただきまして、皆さんにご説明させていただきますと思います。

【中田マネージャー】

先程ご紹介いただきましたアグリテックの中田と申します。昨年から総務省の事業で観光まちづくりに関わらせていただきまして、今年度もぜひ浜益で引き続き事業を継続してほしいということで、ふるさと財団という財団から助成金事業がありまして、そこで外部アドバイザーとして、正式には地域再生マネージャーという肩書きなのですが、そういう肩書きでまた今年度、こちらで仕事をさせていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いたします。

地域協議会の方でも何度かこういうお話はされているということで、どんなことをやっているのかということをお時間いただいて、ご紹介させていただきたいと思っております。

その前に、今日の議題にあります地域おこし協力隊、出身地は栃木県ということで、私も栃木県で栃木と縁があるということで、しかも年齢が43歳、私も今年43歳になりますので、ちょっと栃木色が強くなるかもしれませんが、よろしくお願いたします。

スライドを使って説明したいと思うのですが、皆さんのお手元には4枚ほどのスライド資料があるのですが、15分ぐらいお時間をいただいて簡単に説明したいと思っております。

栃木県出身ということで、経歴についてはご紹介がありましたので、省かせていただきます。ここから来ましたということで、今話題の東川町から来ました。これは私のフェイスブックなのですが、ニュースでも出ているように、昨日石狩川の氾濫がありまして、その支流になっている東川の河川は今このような状態です。なかなかニュースには取り上げていただけませんが、さらにこれは農家さんの水没しちゃったピーマンハウスの状況、水は引いたんですけどもどろどろになってしまったところ、これは家の倉庫まで来ちゃったところ、本当は目の前が全部田んぼなんですけれど、湖のような川になってしまって、天人峡が羽衣の滝の散策路が開通したばかりですが、そこも大雨で崩壊してしまって、また通行止めになって、そんな状況になっています。普段はですね写真のまちということで、写真写りの良いまちづくりをして行こうということで、やってきている町なんですけれども、標高2291m、最高峰旭岳の山麓ということで、伏流水で地下水の水の町です。写真甲子園とかそういうふうなことをしながら、写真写りの良いまちづくりをしていこうということで、そういう取り組みを30年近くやっていますと、景観を良くしようとか、じゃあお店の外観をこうしようとか、じゃあ写真を撮られてもいいような接客をしようとか、そういうふうになにか積み重ねていった結果、30年40年という長い年月がかかってはいるんですけども、今、道内でも人口が増えている町ということで、注目はされております。移住者が結構いろいろなカフェとかもオープンしております。ぜひとも来ていただきたいと思っております。そんなところでまちおこしをやっていこうんですけども、浜益のほうの事業についてどんなことをやっていくかということで、まちづくりの基本は誰もが住んで良かった、訪れて良かったというような持続可能なまちづくりということで、住民一体との取り組みというのは必要だということで、地域再生マネージャー事業では、これから人口を増やしていくことは難しいので、来る人、交流人口を深めてですね、地域にお金を落とすような仕組み、それを元に持続可能なまちづくりをしていきたいと思います。つまり観光を柱にして交流してくれる人を増やして、地域にどんどんいろいろな人、いろいろな刺激、いろいろなお金を入れてまちを持続させていこうと、そういうふうな活動をしていけたらなど、そのアドバイスを私のほうでさせていただければと思っています。

どんなことをやっていくかということ、全部で4つあるんですけども、まず浜益の魅力を発信するプラットフォームづくりということで、先程、真奈美さんからもご報告あったように、結構個々に発信しているのを、それを浜益ってこういうところだよということを一元に発信できる組織みたいなのがあったらいいんじゃないかということで、5月に浜益観光まちづくり推進協議会というのを、昨年関わっていただいた構成団体さんを通じ設立しまして、まずそこは受け皿になって発信していきましょう。そういうふうなことをしていきます。その組織運営に対してのアドバイスをしていく。

2番目に、浜益の情報発信、浜益の独自の情報発信を行って浜益の魅力を内外に発信していきましょう、ということで近年は携帯電話ですとか、ホームページだとかいろいろあるんですけども、例えばですね、これは石狩市観光協会さんのホームページです。浜益の情報を見てもなると、石狩市全体をやっていますので、石狩市の宿泊とか、石狩市の体験、祭りということで、浜益に行きたいんだけども浜益の情報を調べるといってなかなか出てこない。これは石狩市役所のホームページですけども行政のホームページなのですが、その中に観光というのがありまして、観光をクリックすると海水浴場ありますよと、まあカテゴリーも石狩市全体を把握して発信している、これはしょうがないんです。じゃあみなさんどうやって調べているかということ、例えば最近ホームページで、じゃあ浜益に行きたいとなったら、浜益といれて、観光といれるんですけども、これを検索すると最初に出てくるのはじゃらんんのホームページ、浜益地区として発信している情報というのが、まずじゃらん、じゃらんで何が出

ているかという、黄金山ですとか、浜益温泉直売所、パークゴルフ場、次に出てくるのは石狩北商工会さんがやっているタウンガイド、ご自身でこうやって検索とかしたことありますか。けっこう観光客というのは最近スマートホンですとか、こういうホームページとかでどんな情報がそこに行くところかというのを、こういったもので調べる傾向があるんですね。ですのでいくらイベントとか朝市とか花火とかやっていますが、じゃあそれをどういう形で発信していくかというツールが実は、浜益に限らず、いろいろな自治体でなかなか出来ていないということで、この2番目の浜益の情報発信をしていきましょう。ということで浜益独自のホームページづくりをしているところです。

三つ目に浜益に遊びに来たくなる観光商品づくり、ビーチや黄金山とか観光で訪れるスポットはいっぱいあるのですけれども、例えばこれからお話があると思いますが、荘内藩陣屋跡の取り組みとかについても例えばそこで集客して、例えばガイドにいくら払ってやりますよとかという、そういう仕組みがあると観光客の皆さんは来やすいのかなと思いますし、例えば黄金山の散策するのであれば、私がガイドをしますよ、千本ナラでしたら大久保さんとか、スポットがあるから勝手に行ってくださいというよりは、地元の人が案内役になったりして、その案内役に対して対価をもらうみたいな、そういった仕組みがあると、観光客も来やすいのかなと、まずはそういった観光商品を作っていきますよということをやりたいと思っています。

最後に四つ目なんですけれども、そういう案内や、荘内藩陣屋跡の説明をするにはどうしたら良いかだとか、そういう勉強会とか講習会とかそういったことをして、皆さんのスキルというか案内レベルを上げていくような勉強会をしていけたらなと思っています。

母体となる浜益観光まちづくり推進協議会が主体となって、私は課題解決に向けて持っているノウハウのちょっと、微力なんですけれども、アドバイス、指導すると、そういうふうな立ち位置ですね、あくまで今年平成30年度、1年間は契約はいただいているのですけれども、契約が切れると僕はいなくなってしまう。いなくなったら衰退するのではなくて、あくまでこの事業を進めていくためにはやっぱり地域の人達が主役にならないといけない取り組みですので、なるべく私は縁の下の力持ちみたいな形でサポートしていくようにしていければと思っています。

ちょっと簡単に講釈をさせていただければと思います。

これまでの観光というのは、皆さん方の年代という団体旅行、大型バスを使って、例えばディズニーランドへ行ったりとか、リゾート施設に泊まりに行ったりとか、みんなでわいわいがやがややりましようとかという物見遊山的な観光が主体の旅行でした。最近の観光というのはより人と違ったもの、より自分の目的にマッチしたもの、より自分の目的を実現するのに行きやすいところ、もっと地域の人と交流をしたい、僕しか知らない観光地がここにあるぞ、そういうふうにみんながみんな同じところに行くのではなくて、個人型の観光旅行というのが主体になってきています。大きく変わった部分というと団体旅行から個人の旅行が多くなってきています。だから夏場なんかはレンタカーとかオートバイとか借りてこの辺もぶんぶん走っているとは思うんですけれども、そういう人達はそういう目的に応じて自分の目的を達成する旅というのを好んでやっている人達です。まずこのポイントがあります。ということは個人旅行客が増えてきたということは、いろいろなこの観光施設がありますよと、四つ五つぐらいのポイントを紹介するだけではなく、実は漁業体験もできますよ、農業体験もできますよ、陣屋跡を詳しくお話しますよ、八田さんの人形の苦労話も語り部としてお話できますよとか、そういうふうに地域の浜益の受け入れの仕方も、それに合わせて多様化しなければならない、つまり観光商品を既存のものではなくて、いろいろ作ってあげるとお客さんが気安くなりますよと、そういうふうなことが必要となってきます。二番目にこれ横文字で言うとマーケティングというんですけれども、じゃあ浜益にどういってお客さんが来ているか皆さん知っていますかというお話ですね。ビーチに訪れている人はどこから、どういうグループで、何の目的で来ているのか、泳ぎたいために来ているのか、ただ増毛から花川に行く途中に海がきれいだからちょっと寄っただけなんだとか、そういうあれですね浜益が好きで来ているのか、どんなお客さんが来ているのか、ふじみやさんに来るお客さんはどういう人が来ているのか、これはこれから調査する予定なんですけれども、それに依って浜益で提供できる観光コンテンツを作っていきますよということなんです。それと地域全体を把握している人はいますか、おのおのに情報発信はしていますけれども、浜益のことだったら俺に聞けといえる人が地域にいますかということですね。そういう人達が浜益の顔になってですね、どんどんPRしていく場面を作っていくことが必要なのではないでしょうか。

ちょっと業界的なお話なんですけれども、これまでの観光というのは、地域の浜益の観光事業者、民宿やっている方、どら焼き屋さんやっている方が札幌とか東京のお客さんを呼び込む為に、都市部にある旅行会社に営業しに行くと、旅行会社任せで誘ってくるパターンだったんですね。これを発地型観光

っていうんですけども、要は浜益じゃない人達が浜益のPRをして、浜益につれてくるという仕組みなんです。ところがこういうツアーでなくても、浜益に関心がある人、例えばルッツを食べたいとかそういう人達は、個人でも車とかサイクリングとか個人でも行けるようになってしまった。つまり、観光事業者が都会にある旅行会社に商品をおろさなくても、地域から情報を発信すれば個人で来るお客さんというのは結構いますよと、つまり浜益へおいでよというそんな観光の形態を作っていくことが急務となって、これを地域主導型観光というのですが、発地型観光、今旅行会社がツアーを組んで浜益につれてくるってというのは結構難しくなっています。先程も言いましたように個人旅行者が自分の目的に合ったツアーを組みたくなっているということで、それに応じた浜益らしい情報を地元から発信していくというふうなことが今求められております。

じゃあ観光における効果というのはどんなものがあるのかということで、先程も言いましたように2040年の予想、ちょっと前にはやりましたけど、人口動向ですね。北海道全体で550万人近くいまずけれども、今から30年後ぐらいは24%410万人に今の4分の3の人口になりますよ。そういう人口に浜益に定住移住人口を増やせるかというとなかなか難しいですよ。今人口の取り合いになっています。例えば今浜益に住んでいる人が1年間に使う消費金額、124万円あるそうです。なので誰かが死にしまった、転出しちゃったということになると、人口が一人減ると124万円、浜益からお金が消えるということですね。逆に観光客が使うお金ってというのはどういふものがあるかということ、日帰りでお客さんと家族4人で1万6千円、宿泊も伴うと5万2千円ぐらい使いますよ。つまり人口が一人減ったら日帰りの浜益に来るお客さんを79人呼び込むと人口1人減った分の元が取れる。宿泊を伴えば24人来ていただければ人口1人減っても元が取れる。つまり宿泊を伴う旅行者79人を入れ込むより、24人入れ込んだほうが良いと思いますけれども、定住人口1人分になりますよ。そういう人達に浜益のファンになってもらって繰り返し来てもらうことで、定住人口が一人減っても2回3回来てもらえば、それ以上のお金が浜益に落ちる仕組みになるのではないかと、簡単な数字遊びですけども、いずれ定住人口増加につながっていただければと思うのですけれども、交流人口をいかに増やして行って、地域にお金が落ちるような仕組みを作っていくかというのが、観光まちづくりということの基本になっているのかなと思います。

その仕組みとして、五つのポイントがあるのですけれども、浜益を知りましょう、お客さんを知りましょう、魅力ある観光商品を作りましょう、いただいたお金をじゃあ次にどういふふうにご還元していこう、福祉事業に充てる、二次交通が不便だから乗り合いタクシーを増やしていく、じゃあそのための体制を作っていきますよと、いまようやくこれらを推進するための協議会ができたよという段階ですね。それぞれ他力本願ではなくて、例えば今日お集まりの方もそれぞれ自分ができるやり方というのがあると思います。今日お集まりの方もいろいろな役職を持って、今日はたまたま地域協議会の委員さんですが、普段の仕事、趣味そういった分野で、いろいろ観光客に対してサービスができるスキルを皆さん持っているかなと思います。そういう形で地域の皆さんがそれぞれこう体験の提供ですとか、いや私がこう人を繋ぐ役目になりますよとか、いや私はツアーの企画を考えてみるよとかですね、そういうふうなことを地域の皆さん一体となってやっていくことが、必要ではないかと思っております。

最後になりますけども、全部で三つポイント挙げさせていただきたいんですけれども、これまで観光協会の皆さんが旅行商品を作ってやってきたと、では無く、地域振興は交流人口を増加させる、交流人口を増加させるためにはやっぱり観光の力が必要だ、気軽にこう浜益に来て交流人口を増やして、お金を落ちるような仕組み、これによる観光による地域振興というのも可能性の一つではないか、次に今ばらばらで発信しているものをつなげて、地域により滞在していただいて、いろいろな組み合わせによって浜益をPRしていく、最後に既存の観光資源だけではなくて、新しい掘り起こしをして浜益に来る魅力発見というのをさせていただければなと思っております。

平成28年に浜益フォーラムというのが中学校であったと思うのですけれども、そこでも地元の子供たちが故郷愛を育む教育という部分においても、浜益がこんなふうになったらいいという意見が出ています。話によるとなかなか実行に移っていないというのが現実のようです。その中で観光とかに特化して実現できるものを、浜益から高校が無くなってしまったこともありますけれども、中学校を出てからもまた浜益に将来戻ってくるような人材を、皆さんが中心になって浜益って良いところだよということを、今度は大人が責任をもって子供たちに伝えながら、浜益の魅力を発信していくようなことを皆さんでやっていく、これが観光まちづくりかなと思っています。地域の担い手は皆さんです。やるのは皆さん自身です。得意分野を生かして浜益をPRしていきますよ。いま浜益の人口は1500人と聞いています。その内の10%、つまり今回集まっている皆さんも関係者と私は認識しているのですけれども、浜益の150人が関わっていただければ、少しづつですけどまちは変わります。まちは動きます。

私はよそ者なので、言いたい放題をいいますけれども、やるのは皆さんですので少しでも浜益を発信していく関係者になって、観光まちづくりというものを進めて、浜益の地域活性化を図っていければなと思っております。微力ながらまだ1年間ですけれどもちょっとお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

【宮田会長】

ありがとうございます。大変貴重な、私たちにとっては耳が痛い部分もありましたけれども、ちょっと目が覚めたというか、貴重な提案をいただきありがとうございます。引き続きよろしく願いしたいと思います。

只今の中田社長からの説明がありましたけれども、皆さんお聞きしたいことがありましたら。

【大浦委員】

今お話を聞きながら、自分のスマホで善盛園さんとか木村果樹園さんのホームページを見ていたんですが、すごく良いホームページが載っていて、今ずっと言われていたように、今の例で言うと善盛園さんとかが、すごく良いホームページを持っているのに、そこにちゃんと行きつけるのかどうかということだと思ふんですよね。それをまとめたものからそこにちゃんと入っていけるように、ということだと思ふのですけれど、私自身は今年の春にこちらに赴任しましたので、浜益のことはあまりよく分かっていないのですけれど、中田さんと同じようによそ者といえよそ者です。善盛園さんとか木村果樹園さんとかはさくらんぼですごくやっていると、僕はここに来て初めて知ったんです。全然知らなかったんです。私がここに赴任して、家の父と母が、もう85になる父と母が札幌の白石に住んでいるのですけれど、5, 6年前に浜益で良いさくらんぼ食べたんだよねって話をしてて、えっそうだったの今度連れていけて、来週か再来週連れて来ないとならないんですけれど、そのときはツアーに乗っかってきたみたいなのですが、先程の中田さんからあったように、ツアーではもう行きたくないような話なのです、もうお年寄りの方々は、そうじゃなくて、個人ですとか、私みたいな息子がいれば連れてこれるのでしょうけれど、そういったように動きたいとそういう方が多いようには聞くんです。そのためには先程からお話があったように、もっとPRして、良い所ありますよと本当に発信していくとだいたい違うだろうかと、若い子たちなんかも、若い子たちはなおさらスマホで探しますから、そこにぱつと出てくれば、じゃあちょっと行ってみようか、ここだと札幌から2時間弱で来れるんで、ドライブにはちょうど良い場所ですよ。これなら来ていただけるじゃないかということをお願いしながら話を聞いていました。それでこのプリントの裏面の今説明していただいた、住んでよし、訪れてよし、浜益の未来づくりというところを、ずっと今説明していただきましたけれども、その一段上にある、実施体制イメージってありますよね、そこにツアー会社、観光客、関連企業、学校ってありますよね、この学校というのは意図は何ですか。

【中田アドバイザー】

先程、渡邊さんからもお話があったように修学旅行です、市外からの修学旅行とか教育旅行、札幌の例えば中学生だと宿泊研修旅行、浜益だと近すぎるかもしれないですけれども、例えば旭川とかそういう町外の宿泊、弊社では本州からの高校生の修学旅行とかの受け入れも行っていきますので、特に近年は一次産業、生きる力を育む教育ということで、農業体験とか漁業体験、そういうところには農家民泊、漁業民泊をするような生活体験プログラムというのが、修学旅行の中でも結構人気なプログラムになりました。旭川エリアと道北エリアのコーディネートもしております。そういうところを対象とした学校という意味です。

【大浦委員】

こちらに呼ぶというイメージですね。私も長く教員をやっているのですが、実は逆に都市部にいたときには、そういう場所を結構探したんですよ。修学旅行で東京方面に行くんですけれど、千葉まで行って民泊をするという修学旅行に行ったことがあるんですよ。そしたら話を聞くとその民泊のところが、すごく慣れているというような、毎年受けているのでクラスの半分、20人ぐらいを受け入れてくれて、民泊して朝ご飯を食べて、出てくるときにはもう子供たちも涙ながらに別れてくるって話を聞いて、是非そこに行きたかったのですが、たまたま震災にあった年にぶつかって結局私は行けなかったのですが、そういうイメージですよ。

それですごく僕もそれが良いなと思って、都市部の子たちだと一次産業の経験とかをさせたいじゃないですか、ただその受け入れる宿に、私も良く分かっていないですけれども、現実来ているのでしょうか。

【中田アドバイザー】

そうですねこの辺は来ていないですね。旭川とか空知、十勝方面は来ています。

【大浦委員】

そういうのを受け入れられるような体制ができて、どちらが先なのか分からないですけど、そういうところでPRして来れるようになったらかなり僕も違うと思うんですね。やっぱり僕たち教員だけの口コミルートみたいながあるので、1回行ってそこが良かったとなったら、ぶわーっと広がりますから、来年うちも行くみたいになりますから、逆にあそこ駄目だわとなったらみんな止めますので、結構そんなところあるじゃないですか、そこら辺もひとつ検討材料にはしたらいいんじゃないかというのと、この間、宇野さんとはずいぶん話したんですけど、同じように宿泊学習でスポーツ関係の合宿地としての機能ですね、すばらしい陸上競技場とか、そんなのを作るのは何億と掛かるので、それは無理ですけど小さいながらも体育館がある、ということがあるのでそういうところで引っ張り込める要素はあるんじゃないかなと思うんですよ。僕はバスケット専門で、自分自身がチームを連れて全道あちこち合宿に行くんです。具体的に言うと秩父別の遊&湯のところの合宿所なんかはすばらしいので、あそこに毎年行ってたんですけど、そういうふうに安く良い感じで泊まれる体育館もあるというところを、札幌市内の先生も探すんですね。ここだと先程言ったとおり2時間弱で来れるので、合宿するのに最高だと思うんですね、余計なものが無いので、打ち込めるとい、というのもちよっと有効できればいいのかなと、ただそのためには施設が、宿泊施設ですね。

もう一つ、先程の学校の話ですけど、受け入れるほうじゃなくて、実はうちの学校で修学旅行で浜益中学校の生徒が東京方面にいきますけれど、そこで浜益のPRができないかという話を、この間学校でお話させてもらったんですね、実際には新篠津村で新篠津中学校がやっているのです。新篠津のお米の子袋を生徒に持たせて、農協でただで出してくれるらしいんですけど、子袋を生徒が持って行って、東京でこうPRしているんです新篠津米をね。同じようなことができないかなと思って浜益中学校でも検討しているんですけども、具体的な物品まで出せるか、例えばさくらんぼを持っていくわけにもいかないかと思っていますが、何がいいかわからないですけど、とりあえず学校だけで考えてできるのは、PRのチラシみたいのを子供たちが事前に作って、浜益こないところですよみたいということに向こうの方にPRしてくると、ひとり10枚でも持って配付するぐらいはできそうだねっていうことで今検討しているんですよ。来年、今の中学校2年生が行くときには、地域の方のお知恵もお借りして、チラシに何を載せたらいいのかとか、または物品をもし寄付してくれるものがあるのなら、それを持って行ったらいいのかとか、逆にあんまり余計なことをするなという話なのか、ちょっとわからないですけど、そんなふうに学校では今考えてますので、もし何か良いお知恵があれば教えていただければと思います。

【中田アドバイザー】

一番目の民泊体験、修学旅行を呼び込むという民泊体験についてなんですけれども、弊社でやっている取り組みということで、スライドを見てほしいんですけども、15年ぐらいこういう活動をやってまして、今年も15校ぐらい横ばいなんですけれども、2千人ぐらい今受け入れて、道北エリアでやっています。農家さんのところに泊まるということで、うちはコーディネーターということで、いろいろな地域と連携しながら、この学校というのは外の学校です。いま稚内までエリアが広がってやっています。東北とか関東のエリアは昔、養蚕農家が多かったので結構10人、20人体制の農家民宿というのが多いんですけど、北海道の場合は3、4人ほどの少人数で、部屋に4人ぐらい寝れるような、そういうふうな民泊体験ということ、農家さんとか漁業家の皆さんにお願いをしております。最近では日帰りパターンではなくて、民泊体験というのが需要がありまして、例えば浜益のきらりにバスが来てですね、受け入れ農家さんがお出迎えして、各農場まで車で移動して、その日その時の作業を体験して、おっしゃったような涙のお別れというのが受け入れパターンです。現在、北海道内こういうエリアで受け入れやっています。本州の学校って結構マンモス校が多くて、300名、400名、200名以上の民泊の受け入れを行っているエリアというのが、今これだけなのです。なので我々としても、この日本海沿岸エリア、千歳空港にも近い、旭川空港にも近いということで、農家さんだけでなく、漁業家の皆さんにも協力いただいて、さっきの交流人口じゃないですけども、修学旅行、多感な時期に浜益に来てもらって、浜益の魅力を向こうに帰ってもPRしてくれるファンを、高校生たちにしてもらおうが一番かなと思っています。ちょうど修学旅行の受け入れでこの青いラインというのが、黄金ルートといいまして、本州から来る修学旅行って大体千歳から入ってきて、富良野、美瑛、旭川、小樽たまに函館行って帰るんですけど、その周遊ルートになかなか日本海側って載らないんですね。ところがですね近年おっしゃるように農家民泊ができれば、エリアは問わないよという学校も最近多くなってきます。それで例えば稚内エリアというのは大規模なホテルがないんですけども、分宿型であれば教育旅行の誘致が可能だということで、昨年ですね、稚内ではじめてのファームステイを実現させたんです。

120名のちょうど良い学校だったので、稚内空港から入って稚内方面で2泊の農家民泊をして、3日目に旭山動物園に行って、最後に札幌、小樽を見て帰ると、ようは北海道を縦断して帰っていったということなんですけども、そういったことと言えば稚内に来れば、留萌とか日本海沿岸のエリアも民泊とか漁業体験の受け入れ態勢が整えば、誘致できる可能性は大にあると思っております。

今度は地元の子供たちに対しても農家民泊という効果がありまして、農村に住んでいるけれども、漁業とか農業って知らないという子供たちが最近多いんですね、ふるさとの愛着を育む一環として、地元の子供たちを地元の農家や漁業家が民泊で受け入れる、生活体験をしてもらうというカリキュラムを浦幌とか函館のほうではやり始めております。地元の子供たちも、こんな浜益なんか出て行くわということではなくて、浜益を知ってもらうということと、3番目のお話にもつながるんですけども、十勝の浦幌町では同じように小学校の修学旅行で、札幌の地下歩道空間で浦幌のPRをしているんですね、特産品もそうなんですけども、浦幌ってこういうふうな観光資源があるよ、こういうふうな地域ですよ、それを総合学習の時間でグループ学習させて、修学旅行に標準を充てて、地下歩でPRしてくるぞというふうにやったりしております。また徳島県のほうでは、地元の中学生在が観光ガイド、例えば千本ナラとか、イチイの木だとか、陣屋跡だとか地元の中学生在がお客さんに対して、観光ガイドをするという、それも授業の一環でやっています、地域にとっては良い人材にはなるんですけど、子供たちにとってもふるさと学習の一環になりますし、また、マスコミってあまり使いたくないんですけど、子供たちが自分のまちをPRしているということで結構食いつくんですね、それで二次効果じゃないですけども、浜益のPRもしやすくなると、そういうふうな形で総合的な組む時間も学校内で完結するのではなくて、先生がおっしゃるように地元の人と連携して、地元に来るお客さんを案内し、地元から出て行ったら修学旅行とかで浜益をPRすると、そういうふうにしてふるさと愛を育む教育できる形でやっていければと思います。

あとは小中高の学校教員による農村民泊という取り組みもやっています、先生、公務員さんは授業でやるところを回っちゃうんで、担任が変わるとこれまで浜益のふるさと学習をやっていたんだけど、今回は英語に力を入れますよとかいろいろと変わるんですけども、地域の魅力を担任が変わっても継続して子供たちにつなげていく教育をしていきたいと思います、新任教員の研修の一環としての受け入れをしています。なので皆さんも担任の先生が変わったら、ぜひ浜益の観光ガイドツアーとかを例えば観光まちづくり協議会がやって浜益をその人達に知らせることです。

2番目の合宿地機能ということで、例えば農家民泊も高校生だけとかではなくて、いま大手企業とかも異業種交流とかそういったもので農家民泊にする人もいますし、あと東川では民宿だとかまちの公共施設の宿泊できるところを使って、同じようにスポーツ合宿地とのことで、例えば大学のテニスサークルとか、マラソンの陸上部だとか、そのぐらいだと20人とか30人ぐらいの規模なので、そういう人達に合宿地としてきませんかとか発信して、なんとか成功はしているんですけど、そういうふうにして対象を宿があるから観光客ということではなくて、例えば企業だとかスポーツ関係の人達を招くような仕組みというものを、先生がおっしゃるようであっていいのかなと思います。

【宮田会長】

ありがとうございます。いろいろと興味深い事例ができております。浜益の多くの人達は人口が減っている、お年寄りが増えて高齢者比率が高くなってきている。マイナス面ばかりとらえて、なんか諦めというかそんな感じを持っている人もいるのではないかと思います、ですけど取り組みを聞きますと、遅いということはないと、手遅れということはないと、今からでも十分間に合うとそんな希望が持てるような提案の内容だったと思います。これから観光まちづくり推進協議会を中心にして我々、地域協議会もお手伝いできるものがあれば、積極的に参加しながら実現できるものがあればひとつでも、つなげて行きたいと思っております。

皆さんから何かお聞きになりたいことはありますか。これからもいろいろな機会に聞けるチャンスもあるかと思っておりますので、今日のところはこの辺でよろしいでしょうか。

大変貴重なお話をいただきありがとうございます。

【宮田会長】

次に、広報市民生活課のほうからデマンド交通の調査について、お願いします。

【時崎課長】

昨年度5月にデマンド交通の運行に関するアンケートに、皆さんをはじめとした地域の皆様にご協力いただきましたことについて、改めてお礼申し上げます。

皆さんのお手元にございます、参考資料(1)浜益厚田乗合自動車(浜厚線)の利用状況について、浜益厚田間乗合自動車利用実績実態調査(アンケート調査)、「道の駅あいろんど厚田」で乗り換え可

能になりました！！に基づき説明させていただきます。

参考資料(1) 浜益厚田乗合自動車（浜厚線）の利用状況について
浜益厚田間乗合自動車利用実績実態調査（アンケート調査）
「道の駅あいろーど厚田」で乗り換え可能になりました！！（説 明）

【宮田会長】

ありがとうございます。委員の皆さんから何かご質問等がございますでしょうか。

なければ、今月下旬ぐらいに皆様のお手元にアンケートが届くかと思えます。ぜひご協力をいただきたいと思えます。より良いデマンド交通の運行についてご協力をお願いしたいと思えます。

【宮田会長】

続きましては、企画経済部のほうから過疎計画のその後についてのご説明をお願いします。

【本間次長】

前回の地域協議会におきまして、この協議会においてご承認いただいた過疎計画の変更の件でございますが、先月、第2回市議会定例会が開催されましたけれども、そこで議決をいただくことができました。現在、北海道に対して計画変更の手続き中ということだけ、経過報告としてご報告させていただきたいと思えます。

【宮田会長】

ありがとうございます。前回協議会で審議いただきました件について、只今北海道のほうへの手続き中でございます。引き続きよろしくをお願いします。

【宮田会長】

続きましては、生涯学習課のほうから陣屋跡地の活用の取り組みについて、ご説明をお願いします。

【宇野課長】

私のほうからは荘内藩ハママシケ陣屋の活用について、その取り組みについて参考資料(2) 荘内藩ハママシケ陣屋を語るタベほかに基づき説明を申し上げます。

参考資料(2) 荘内藩ハママシケ陣屋を語るタベ ほか（説 明）

【宮田会長】

ありがとうございます。何かお聞きになりたいことはありますか。

【石川委員】

7月23日の案内は区民だけですか。

【宇野課長】

これは区民対象なのですが、8月と9月に花川住民向けに同じような形で陣屋の紹介と、現地のツアーという大げさですが歩く会というのを予定しております。

【宮田会長】

イベント等のPRもまた引き続きよろしくをお願いしたいと思えます。6日の語るタベ、23日の歩く会の参加も、委員の皆さんの時間の許す限りお願いします

それでは陣屋関係については以上で終わりたいと思えます。ここからちょっと休憩します。

— 休 憩 —

5 次回開催日程について

【宮田会長】

次に次回開催日程について、事務局から提案願います。

【藤巻主査】

次回開催につきましては、会長と協議のうえ、近くになりましたらご連絡いたします。

【宮田会長】

只今、事務局から提案がありましたとおり、次回開催は後日ご連絡しますのでご出席のほど、よろしくをお願いします。

6 閉 会

【宮田会長】

以上をもちまして平成30年度第3回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成30年8月8日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会 長 宮 田 勉